



## 『古典と現代文学』

山本健吉

山本健吉は長崎市磨屋町生まれ。本名は石橋貞吉。日本を代表する文芸評論家で、文化勲章も受章した。「城の古址」や「泳ぎ」等長崎に関わる随筆も多い。

碑には「母郷行」の一節が刻まれている。

長崎の町を行く。雨が洗った石畳の坂道、

西日のさす白壁の土蔵の前、……

昭和五十九年の宮中歌会始で召人を務めた時の歌に次の一首があり、この歌を刻んだ碑が伊木力に建つ。

ふるさとの伊木力みかん

みどり葉の大き葉つけて花のごとくあり

平成十八年、長女石橋安見子氏より氏の肉筆原稿他関連資料百二十五点が県立長崎図書館に寄贈された。その中にあつた氏の草稿では、当初の「長崎の伊木力みかん」が「ふるさとの伊木力みかん」と改稿されており、作品の特化ではなく、普遍化を意図した創作過程が読み取れよう。